

選手宣誓その2

2021.2.19

そして、気になるのは、2011年、夏の高校野球の選手宣誓である。皆さんは覚えているだろうか。私は覚えている。中身は忘れたが、とにかくすばらしかったこと、目頭が熱くなったこと、感動したことは今でもはっきりと覚えている。

春から夏にかけて、どれだけの時が経っても忘れることのない、さまざまなことが起きました。それでも、失うばかりではありません。日本中のみんなが仲間です。支え合い、助け合い、頑張ろう。私たちは精一杯の笑顔で、全国の高校球児と、思いを白球に込め、この甲子園から消えることのない深い絆と勇気を日本中の仲間へ届けられるよう、全力でプレーすることを誓います。

これが、金沢高校の石田翔太主将によって行われた伝説の選手宣誓である。原稿にすると、わずか4行である。簡潔かつ力強いとはこのことである。私の記憶では、2011年、春の選抜高校野球は、あの状況の中でも行われ、選手宣誓はすばらしいものだった。このときの選手宣誓に選ばれたのは、創志学園の野山慎介主将だった。実はこのときの創志学園は創部1年目で選抜出場を決めたチームだった。部員はまだ全員1年生、主将の野山選手も1年生である。また、通常ならば、選手宣誓をする主将は、組合せ抽選の時に主将自身がくじを引いて選ばれるのだが、この年は奥島会長がくじを引いている。

私たちは16年前、阪神淡路大震災の年に生まれました。今、東日本大震災で多くの貴い命が奪われ、私たちの心は悲しみでいっぱいです。被災地では、すべての方が一丸となり、仲間とともにがんばっておられます。人は仲間を支えられることで、大きな困難を乗り越えることができると信じています。私たちに今できること、それはこの大会を精一杯元気を出して戦うことです。

がんばろう 日本。生かされている命に感謝し、全身全霊で正々堂々とプレーすることを誓います。

東日本大震災からまだ10日程度しか経っていない中で、見事な選手宣誓をし、被災地だけでなく日本中を勇気づけた。春の野山主将も、夏の石田主将も東海大学に進み、同じ野球部で活躍したのは単なる偶然だろうか。それにしても、甲子園の選手宣誓は、どうして毎年あんなにりっぱなのだろう。いつも感心させられる。今の若者がすごいのか、野球という競技がすごいのか。昔よりも表現力があるように感じる。大人が見習うべき点が多い。

私がまだ中学校の部活動顧問をしていた頃の話である。生徒に選手宣誓の機会があると、「宣誓、我々選手一同は、スポーツマンシップに則り、正々堂々最後まで戦うことを誓います」などというおきまりのことは言わせなかった。このパターンの嫌なところが他にもある。最初から最後まで男子生徒が言い、女子生徒は、「同じく〇〇中学校女子ソフトテニス部主将〇〇〇〇」しか言わない点である。これもやらせなかった。必ずインパクトのある心に残るフレーズを入れ、男子と女子の出番が均等になるようにしてきた。生徒にとっては、せっかくのハレ舞台である。できるかぎりの努力をさせ、人に称賛されるようにもっていきたい。うまくいくことで自信がつき、次へと進むエネルギーとなる。

私が勧める『本日は、お日柄もよく』だが、題名からは、さっぱりどんな話なのか、想像もつかないことだろう。教員は人前で話す仕事である。話すことに関し、考え、悩み、苦しみ、精進を重ねるのは当たり前のことである。もし読んだ方がいれば、読後感を共有したいものである。